

「御国 or 自国からしだねの種蒔き」

～日常をエクステンジできるのか～ マルコ 4:30～32

■「宥和」から「言責」

今年のテーマは言責です。「宥和」から「言責」という言葉に変わっていきました。人と良い関係を保ち続けるためには偽りがあるはいけません。偽りとは言葉から始まります。思ってもないことを言ってしまう、いざとなると思ってもないことをやってしまうということがあります。そして、それは大きな問題を引き起こしてしまいます。例えば、親子喧嘩をしたときに、親が何の気なしに言った「なんであなたはいつもそうなの？あんたなんかいなければいいのに。」という言葉は、親にとっては一時の言葉でしかないのですが、言われた子どもにとっては一生を左右する言葉になっていきます。言葉には気を付けなければなりません。

■想像 vs 意志

やってはいけないと分かっているのに、いつも意志と想像は戦っています。想像と意志、どちらが強いのでしょうか。心配の98パーセントは起こらないと言われますが、多くの人々は心配を基に行動を起こします。例えば、「ダイエットをする。夜外を歩くぞ。」という意志を持ったとします。ところが「寒いんじゃないかな、危ないんじゃないかな、疲れるんじゃないかな・・・」という想像をし、結局ダイエットをやめてしまいます。このように意志より想像の方が強いのです。だから、神様は夢を描けと言っているのです。私達は繰り返し想像し、判断して行動しています。なんと！人間は一日に3万5千回判断をすと言われています。想像してください。あなたの人生は悪くなるのですか？よくなるのですか？決断したこと・意志をもって約束したことをだめにするのは、あなたの描く絵である想像なのです。もうしないぞと決めても、想像によって私たちは自由に勝手に行動します。ネガティブな思いが出てくることがあります。例えば「きっとあの人は話を聞きたくないんだ・・・」という想像をしたとします。すると、緊張し始めます。そういうとき、「神様が祝福してください、その人の人生が変えられる御言葉が、管として私を通して伝えられるだけなのだ。私たちは神様の言葉を伝える蛇口で、神様からの御言葉の水を聞いている人が飲んでいる」という想像を試みてください。すると、「私は神様の邪魔をしななければいだけだ。」という決断ができ、緊張はなくなります。将来をどう信じ夢を描くのか、それともどんな否定的な未来を想像するのかということが大事です。将来と未来は違います。

■御国 or 自国『神の国とは』

『また言われた。「神の国は、どのようなものと言えよいでしょう。何に例えたらよいでしょう。それはからし種のようなものです。地に蒔かれるときには、地に蒔かれる種の中で、一番小さいのですが、それが蒔かれると、生長してどんな野菜より大きくなり、大きな枝を張りその影に鳥が巣を作るほどになります。』(マルコ 4:30～32) からし種とはどんな大きさでしょうか。よい地に蒔かれ、よい環境にあれば、奇跡的に4mほどになるものがあります。せいぜい1m50cmほどの大きさの木です。では、どうしてこのように例えてあるのでしょうか。

「神の国」・・・「マルフォート(王国) ハーエロヒーム(神)」という意味で、「神の王国」を表します。

『なんとすばらしいことよ。ヤコブよ、あなたの天幕は。イスラエルよ、あなたの住まいは。それは広がる谷のよう、また川のほとりの園のようだ。主が植えたアロエのよう、また水辺の杉の木のように。その手桶からは水があふれ、種は豊かな水に潤う。王はアガブよりも高くなり、王国は高く上げられる。』(民数記 24:5～7)

これは、イエス様が十字架にかかった後に起きる奇跡を表しています。旧約聖書の時代に、イスラエルは、当時の王様よりもっと豊かで水がほとばしり出る国になるということを言っています。イエス様は神の国はここに起きると言っています。

■御国 or 自国『からし種の例え』

アブラム、アブラハム、イスラエル

『神は二つの大きな光る物を造られた。大きい方の光る物には昼を治めさせ、小さい方の光る物には夜を治めさせた。また星も造られた。神はそれらを天の夜空に置き、地の上を照らさせ、また昼と夜を治めさせ、光と闇を分けるようにされた。神はそれを良しと見られた。』(創世記 1:16～18)

イエス様は「神の国」をたとえて説明しています。光と闇が何なのかをたとえています。イエス様は光と闇を分け、示されたのです。救いと滅びを光と闇、朝と夜として分けてたとえました。

ブラームスの曲は闇から光になるのだという聖書の考えを表していま

す。神の言葉を聞く者が光を見出し救われるということです。では、からし種というのどこから出てきたのでしょうか。

『主はアブラムに言われた。「あなたはあなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地の全ての部族は、あなたによって祝福される。』(創世記 12:1～3)

イスラエルはヘブル語でヨッドという最も小さな種のような文字とラーメッドという最も大きな文字が使われています。イスラエルとは、小さなものが大きくなるという意味を表しています。アブラハムは、小さなからし種だったけれど、神様の言われた土地に行き、神様の言葉に聞き従い、祝福を受けて大変な奇跡を起こします。長い間子どもができませんでしたが、イサクを授かり12部族の父となり、そしてイエス様につながる系図となるのです。神様の言われることに聞き従いよい環境に植えられるのなら、小さなからし種は大きな木に生長し、鳥が巣を作るような奇跡を起こします。からし種はアブラハムの奇跡を表しています。聖霊があなたの内側に宿ったとき、奇跡が起きあなたは変えられるのだと言っています。小さな存在である私たちが神様に目を向けると豊かな実を結び、奇跡を起こす存在へと変えられるのです。

■御国 or 自国『日常をエクステンジ』

そこで、私たちは自分を変えていけるのかということが問題になります。新年、私たちは神様と共に人生を歩むと決意します。でも、元のからし種に戻り、自分のライフスタイルは変えられません。日常に戻るといことは、現実に戻るといことです。私たちが見る目線は現実でよいのでしょうか。聖書には金持ちが富を捨てられずイエス様について行くことができなかった話があります。現実を突きつけられ、イエス様より富を選びました。日曜日だけ神様と一緒にという人生でよいのでしょうか。エリシャは神様にエリヤについて行くように言われたとき、牛をつなぐので・・・と言いつつ、すぐに神様に従い、エリヤについて行きました。エリヤは2倍の祝福を得ました。神様からの言葉を聞いた時、あなたは御国と自国のどちらを選びますか。御国が来ますようにといわれていますが、私たちがエクステンジをしようとしているのに、今までのルールを変えられないという現実があります。神様の言われていることを実行するのだと思うときでも今までのやり方を変えられないので、上手くいきません。愛のある言葉を悪い態度でやってもよい実を結びません。古い革袋に新しいワインを入れると古い革袋は破れてしまいます。私たちも同じです。私たちの今までのルール・やり方の中で神様の言われることを行うと上手くいかず、疲れてしまいます。

■幸福な人生とは

マーティンセリグマンという心理学者がいます。マーティンセリグマンが提唱している「幸福な人生を構成する8項目」をご紹介します。①祝福を教える②親切を実行する③人生の喜びを味わう(喜ぶことを決断するというを言っています。喜びなさいと聖書は言っています)④よき指導者に感謝しましょう⑤許すことを学びなさい⑥友人や家族のためにお金とエネルギーを使い、環境のために人々のために投資する⑦身体や健康に留意しなさい⑧ストレスや困難への対策手段をもっておくということです。

幸福な人生を構成する8項目は、全て聖書に書いてあることです。

■さいごに

上手くいかないことがあります。夢が閉ざされるように感じる場合があります。しかし、私たちは御国が来ますようにと祈ることができます。みなさんはどうしますか？エリシャのように古いところから出て行って、新しい道に踏み出しますか。それとも、わたしは無理ですと、現実に戻りますか。アブラハムのように父祖の地を離れ、神様の示したところで種を蒔きますか。それとも、これが私の願う道なので、こちらの道を行かせてくださいと言いますか。決めることができるのは、あなたしかいません。今日、神様の前に真摯に祈りませんか。「種蒔きは決断が必要です。犠牲を伴います。だから、できません。でも、私の願いは神様きいてください。」という祈りをしていませんか。あなたは選ぶことができます。神様の新しい方法で行うことを選びましょう。そして祈り、神様の方法で行うことを決断していきましょう。

(要約者:山本 洋子)

(2023年 1月 8日)